

特定非営利活動法人 Global Bridge Network

平成 29 年度 事業活動報告書

1. 活動期間:2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

2. 事業の成果:

今年度は国際支援事業として、ウガンダの現地にて「女の子の教育環境改善」、「環境保全と地域活性化」の2つの事業を、株式会社ラッシュジャパン様、地球環境基金様からの助成金により実施することができた。両事業はウガンダの現地のパートナー団体 SORAK と協力しながら進め、様々な成果を上げることができた。

また、国際交流促進事業として、「ウガンダ Night」、「Sanyu!」などのイベントを横浜にて実施し、アフリカの飲み物・軽食・音楽・ダンスなどを通してウガンダという国について紹介し、アフリカを知らない一般の方々に楽しみながらウガンダという国を知ってもらう機会を提供できた。また、お台場で開催されたイベント「CHIMERA GAMES VOL.4」では各国のブースが設けられ、その中にあるウガンダ大使館のブースにて Global Bridge Network (GBN) も一緒に出品させていただいた。

本年度はウガンダ大使館から声をかけて頂き、また GBN の開催するイベントにも来ていただいたおかげで、多くの在日ウガンダ人にも GBN の活動が認知され、支持していただくことができた。

3. 実施した事業の内容

事業内容は「国際支援事業」、「国際交流促進事業」の2つであり、以下にその活動内容を述べる。

① 国際支援事業

1) 女の子の教育環境改善

開発途上国では、女子生徒が生理期間中に通学出来なくなるという問題が発生している。貧困のため生理用品を購入できず、古着等の代替品を使用し、衣服に漏れて男子生徒にからかわれてしまう、代替品が不衛生であるため病気に感染するなど、通学出来ずに勉強についていけなくなり、さらに退学してしまうなど、女子生徒の教育環境には様々な課題がある。

今年度はベースライン調査の実施、布ナプキン作成ワークショップ、衛生・性教育、ジェンダー(男女平等)啓発¹ワークショップを実施した。対象者は女子生徒だけでなく、男子生徒、学校関係者、保護者なども巻き込み、女子生徒が生理中でも継続して通学可

¹ 男子生徒にも生理などについて正しい知識を身に付け、生理に対する理解を深め、女子生徒をからかうことを防ぐことが目的。

能となるよう、学校や家庭全体でサポートできるような体制を整えた。

女子生徒は月経時の適切な衛生管理を学び、家庭でも生理の話ができるようになった。学校では女子生徒が安心して着替えができるように個室を設置し、また応急処置として生理用ナプキンの常備などの取り組みをはじめた。さらに生理中の女子をからかう男子生徒が減少し、学校、保護者、男子生徒それぞれの立場で自分の役割を認識することで意識の変化が見られ、大きな成果を上げることができた。

本事業は株式会社ラッシュジャパン様からの助成金により実施された。

※各活動報告、ベースライン調査、インパクト調査レポートは GBN の HP より参照可

事業名:ウガンダ共和国で生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業

実施期間:2017年4月1日~2017年10月31日

実施場所:ウガンダ・ムベンデ県

受益者:約840名(対象校3校の女子・男子生徒、教員、保護者、教育関係者など)

支出額:55万



生理用布ナプキン作成トレーニング



生理用布ナプキン作成トレーニング



ナプキンの使い方の講習



生理におけるそれぞれの役割について話し合い



話し合った内容をまとめるグループワーク



話し合った内容を発表する男子生徒



作成した生理用布ナプキン



保護者への啓発セッション



学校にて月経時の衛生管理、ジェンダー啓発

2) 環境保全と地域活性化

ウガンダのムベンデ県では過去2年間で連続して干ばつが起きており、森林伐採、耕作農業のための湿地帯への侵入など、人々の手による環境破壊が深刻な問題となっている。人口の多くを占める女性や青少年は、収入源が限られ生活に困窮しているが、気候変動による影響やその原因を理解していない。高い失業率そして生計を立てられない人々が耕作地を求めた結果、こうした環境破壊へと繋がっている。



住民が畑を燃やしている



埋め立てられた湿地帯

そこで、パートナー団体である現地 NGO SORAK と協力し、レモングラス栽培を通じた環境保全事業を実施した。干ばつで痩せた土地に大量のレモングラスを栽培することは、土壌の浸食を防ぎ、環境に良いとされている。本事業では、地域の学校にて児童を対象に環境教育(環境保全の啓発キャンペーン)、女性・青少年を対象に環境保全・レモングラス栽培トレーニング、地方政府(準郡の代表たち)に対し、対話・会議・現場(環境破壊が進んでいるエリア)モニタリングを通して環境保全に関する政策や意思決定への働きかけ、また近隣農家を対象にレモングラス栽培の促進による環境保全を実施した。また、SORAK は近隣農家からレモングラスを買い上げ、自分たちが所有する蒸留機にてエッセンシャルオイルの生産・販売も行っており、近隣農家の収入向上にも寄与した。



岩の間にも育つレモングラス

成果として、レモングラスの栽培は収入向上だけでなく環境を守る土壌保護として、女性だけでなく男性、若者に受け入れられた。また、学校で実施した環境教育の後、学校の敷地内で植林が始まり、またムベンデ県や準郡地域の指導者に働きかけたことで、環境保護への意識向上、環境保護に関する法の策定、現存

する法の施行に尽力するようになった。(例: ムベンデ県は木の伐採や森林破壊を防ぐためのチャコール(木炭)条例が策定された。)また、耕作を求めた農民による湿地帯への侵入の監視と防止、地域の緑林をさらに強化するようになった。

本事業は、地球環境基金様からの助成金により実施され、GBN は SORAK が実施する事業を代理団体としてサポートした。

※各活動報告は GBN の HP より参照可

事業名: レモングラスの栽培拡大と環境教育による環境保全事業(ウガンダ共和国)

実施期間: 2017年4月1日~2018年3月31日

実施場所: ウガンダ・ムベンデ県およびチェゲグワ県

受益者: 約 6,000 名以上

(女性・青少年 200 名、学校の児童 4,800 名(16 校)、地域関係者 960 名、周辺地域の農家(不特定)など)

支出額: 300 万



青少年への環境保全・レモングラス栽培トレーニング



レモングラス栽培を始めた青年



刈り入れの指導



学校の児童へ環境保全の啓発



指導者による地域の環境問題について対話



現場モニタリング



モニタリング後のフィードバック会議



レモングラスの回収(買い取り)



回収したレモングラスでオイル精製

② 国際交流促進事業

1) 「ウガンダ Night」の開催

横浜市内の NPO・Connection of the Children (CoC) と協働して、「ウガンダ Night」というイベントを開催した。会場は古民家をリノベーションして地域のコミュニティスペースにした CASACO にて、アフリカの各種ドリンク(ウガンダジン、シェリー酒、ウイスキー、コーヒー、レモングラスティー、ケニア産ビール、紅茶、南アフリカ産ワイン)、ピラウ(ウガンダ風炊き込みご飯)、ロレックス(卵を薄く焼いてキャベツなどの野菜と一緒にチャパティで包む)などを用意した。当日は在日アフリカ諸国の出身者(ウガンダ大使館から参事官なども参加)および多くの日本人が集い、ウガンダ産のドリンクや軽食、音楽などを通して異文化を楽しんでいただけた。また GBN の活動やウガンダ国の文化の紹介をするセッションを設け、その中の Q&A セッションでは、日本人からの質問にウガンダ出身者に直接回答してもらう時間を設けることができ、多くの人にウガンダという遠い国の雰囲気味わってもらえ、有意義な交流となった。

(日時: 2017 年 7 月 23 日 15:00~19:30、場所: 横浜、参加人数: 約 40 名)



会場



ウガンダの軽食



文化紹介、Q&A セッション



集合写真

2)「Sanyu！」の開催

横浜市の金沢八景でアフリカのダンスイベント「Sanyu！」を開催した。アフリカダンスグループ‘Studio Barjara’と‘tinga tinga’、またシャンベ(西アフリカの太鼓)を演奏する‘アフロ湘南’によるコラボレーションイベントで、当日はシャンベ(西アフリカの太鼓)の生演奏と共にアフリカダンスグループによる踊りが披露された。GBN からも活動紹介、ウガンダの文化紹介、またウガンダに派遣された元青年海外協力隊のゲストを招き、活動経験についてお話ししていただいた。当日もウガンダ大使館から 3 名のゲストが来場し、一緒に踊り、またスピーチもしていただいた。

(日時:2017年8月27日 14:00~16:00、場所:横浜、参加人数:約60名)



GBNの活動紹介



太鼓とダンス①



太鼓とダンス②



盛り上がる会場



ウガンダ大使館から参事官も参加

貸借対照表

2018年3月31日 現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,384,587		
流動資産合計		1,384,587	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産			
(2)無形固定資産			
(3)投資その他の資産			
固定資産合計		0	
資産合計			1,384,587
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
長期借入金	592,763		
固定負債合計		592,763	
負債合計			592,763
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		22,884	
当期正味財産増減額		768,940	
正味財産合計			791,824
負債及び正味財産合計			1,384,587